

「Grazie! 10 25° anniversario!」



初勝利&シリーズチャンピオン! #79



最後惜しかったがお見事 #2



初参加で表彰台 #123



表彰台には届かず4位 #124

10周年の締めくくりを迎えた2017GT 耐久東海シリーズ。すべてのクラスで今日チャンピオンが来まる、文字通りの決戦の日、ドラマの最後にどんな結末が待っているのか…なおこのドラマにフィクションはない。

「EN」クラス（車両区分なしの自己申告制：アンダータイム規定あり）

今回のENクラスは過去最大級の4台参加、なのでレポートも独立しました。もう一度ENクラスのポイントをおさらい、車両区分はなく、1,2,3C、OPなど各クラスの規定に沿ったマシンであることが必要。その上で、その車両クラスの1秒もしくは2秒よりも速かった場合はその周回数をカウントしないというアンダータイムルールが設けられている。

基本的にはビギナーや、久しぶりのモータースポーツ参加者を想定している。今回は大学生のチームが3チーム、初めてレースに参加するチームが1チームととってもフレッシュな顔ぶれ。思いっきり走っちゃってOKです!!

■予選

序盤から快調なのは#2「ASMC フィット RS」、06秒台、さらには05秒台を記録して周回数を伸ばしてゆく。社内レク活動でレース(的なもの)への参加は初めてとのことだが、さすがは技術系会社、マシンもノーマルに近いとのことだが、このタイプのフィットかなりポテンシャルは高そうだ。

2位走行#79「NAC ヴィッツ」、2回めとあってすっかり慣れたもの、自分たちのペースをきっちり刻む。3位#123「NATC マーチ」、リズムを掴んできたか、まずまず好調。

予選好調だったチームのもう1台#124「日産愛知自動車大学校シルビア」は、序盤早々にスピン、リヤバンパーが外れかけたためピットで緊急手当。出遅れた格好にはなったが持ち前の速さを活かして再浮上を狙う。

■中盤

折り返しの中盤戦、#2「ASMC フィット RS」は70Lapで首位、全体でもトップ10圏内と大健闘。マフラーすらもノーマルのよう、初心者マーク(と何故か高齢者マークも!?)貼ってあるが…いやいや素晴らしい走り。

2位#79「NAC ヴィッツ」が60Lap、少し差がついたか。だがまだ中盤戦。

3位#123「NATC マーチ」59Lap、2位争いは白熱。

4位#124「日産愛知自動車大学校シルビア」、55Lap。だいぶ盛り返したか、チームメイトとの表彰台争いに持ち込みたい。

■終盤

残り一時間、相変わらずトップは#2「ASMC フィット RS」が首位、少しペースは落ちたがレースをコントロール。

2位#79「NAC ヴィッツ」が2位争いから抜け出しての単独走行。#123「NATC マーチ」が単独3位。

4位#124「日産愛知自動車大学校シルビア」、ここから追いかけていたいチームメイトとの差は4~5周といったところ。

Race Report



■最終結果

このまま行けば優勝かと思われた#2「ASMC フィット RS」にアクシデント！ 立体交差下でスピン、コースアウトでクラッシュパッドに接触。SC カーランとなる。

#2 はフロントバンパー周辺の応急処置で、戦列に復帰できたが、これまでのアドバンテージはなくなり、最終的には 25 秒差の 2 位でチェッカー。

代わって勝利を手にしたのは#79「NAC ヴィッツ」、序盤からしびといレースを続けてきたように見えるが、06 秒台に入れる速さもあり、見事初優勝！！シリーズチャンピオンも決定。3 位はチームメイトとの争いを制した#123「NATC マーチ」が表彰台を獲得。4 位惜しかった#124「日産愛知自動車大学校シルビア」、あと1周まで追いつがったが、ポディウムには届かず。



■総評

EN クラスらしいフレッシュな顔ぶれで、思いっきり楽しんだ最終戦。中にはハッスルしすぎたチームもあったが、大きなトラブルにはならずレース復帰できたのは幸い。

特筆すべきは新型（現行）フィットの走り。1+2C クラスで同じ GK5 型フィットを走らせる#67「CRAZYFORCE」チームの関係者も、このフィットは速いと。エンジンはタイプ R があった世代とはいかないが 1500 としてはパワーも充分出ており、これからもっと速くなると太鼓判。ZC 型エンジンを彷彿とさせるといえば、世代の方にはわかりやすいか。具体的にはノーマルでもストレートが伸びるとのこと。



そのフィットを駆って 2 位は技術会社の社外レク、実はこのシリーズ、あえて名前は言えないけれど、軽耐久も含めてそういうチームが多いんです。

あのクルマのエンジンや、あのメーカーのボデーやシャシを開発しているエンジニアたちや、販売の第一線スタッフ、そしてそれらを目指す若者たちが楽しんで、モータースポーツやクルマの愉しみを自らが知る。そしてそれが素晴らしい製品となって世に送り出される。そんな場の一員で居れたことに感謝いたします。そしてこれからの GT 耐久シリーズをさらに発展させていきたいと思います。



EN クラス



シリーズ表彰



Race Report



■最終結果

最後まで気が抜けなかったバトルも決着。#110「アライメント浜松スィフト」が9.124秒差で振り切って今季初優勝。#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」は惜しくも届かず連勝は2で止まった。真夏のような気温に40キロのウエイトも影響があったか。

3位争いは#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」がしぶとく走ってポディウムへ。追い上げた#70「ウエリースシビックGT」は届かず4位。5位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、6位#40「MID・AXIS・YES マーチ」、7位#870「MSCJ 東海マーチ」とAK12が続く。8位は#18「てんぱちロードスター」、8にちなんだわけではないが、ペナルティは痛かった。

9位#67「クレイジーFORCE VZX FIT」、途中接触などもあったようだが、シェイクダウンのマシンを完走ポイントまで持ってきた。10位#50「MSCJ 奈良ロードスター」でここまでが入賞。11位#9「しんかい 2500 スィフト」、#911「ブラウニプリントアーツヴィッツ」はポイントならずも完走。#911は最終盤でのSCのときにピットクローズドペナルティで4周減算となっておりこの順位。



ポテンシャルはかなりのもの #67



こっちは NA #50



#110 歓喜の勝利 それも総合チェッカー！！



完走だが惜しくもポイントならず #9



実力は互角 序盤からバチバチ！！



このピットの時か #911

Race Report



先に動いたのは



最終スティントにかける



■総評

過去最大の激戦を制したのは、#110「アライメント浜松スィフト」、かつての常勝チームもスィフトではなかなか勝てずフィットの後塵を拝してきた。「やって勝てました、もう無理かと思ってたので」と嬉しく語るアライメントチーム。一方#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」はタイヤ交換時に少し時間がかかったことも僅かだが要因か、スイスポとフィットが総合優勝争いを争いをする時代だ。フィットといえば GK5 もなかなか侮れない速さを見せた。カタログデータ 130ps の直噴エンジンはなかなかパワフル、セッティングが進めば面白い存在。タイプ R とまではいかないが、かつての ZC 搭載シビックのようなポジションか。

チャンピオン争いでは開幕 2 連勝の#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」に対し #110「アライメント浜松スィフト」が一本取り返しその差は 5P。大一番を終えて、むしろ争いは激化したといってもいい。さあこの結果は 11 月の最終戦をまとうではないか。

また第 2 戦では EN クラスで走った#9 も今回は通常の 1+2C で、結果は 11 位完走だったが、自信になったのではないだろうか、次回の活躍を期待したい。



アツい～



シビック 25t もないですが！？



1+2C クラス

